

夜桜

村中 秀雄

絵／石阪 春生

桜が

満開の

坂の

上から

ゆっくりゆっくりおりていく

ヘッド・ライトを消したりつけたり

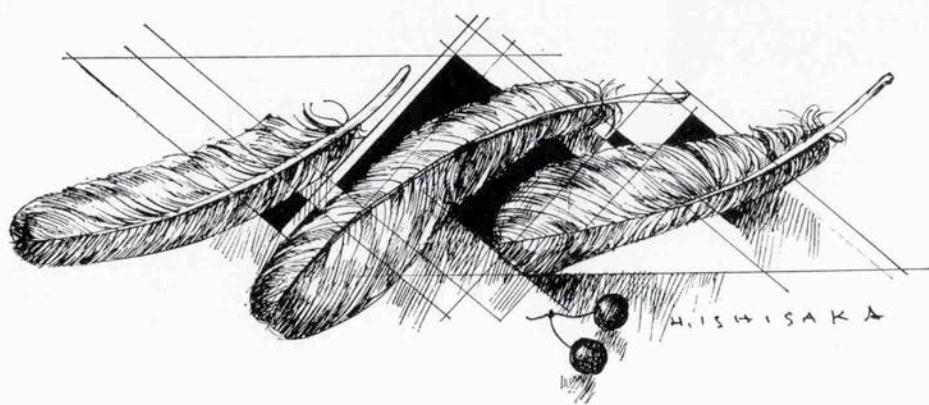
ああ

恋人の目を覚まさないように

しづかにしづかに

花の中を

おりていく



HISHI SAKA

隨想二題

やわらかな心

黒川百々代

（市民の学校）



このたびの私の第一作品集『遊ぼか』が一応形を成して、ほっと一息ついた去年の暮れ、私を驚かせるニュースが新聞に載った。

大三匹が小学校校庭で遊具の鉄棒に宙吊りにされて死んでいた、というニュースである。しかも犬たちは生きているあいだに宙吊りにされたらしい、とコメントがついている。

その後、犯人がつかまつたといふ話はまだ聞かない。

でも、私がそのとき感じたのは、犯人がよくもまあ宙吊りにされてもがく犬を眺めるという「拷問」に耐えられたなあということであつた。

そう言えばそれまでも鶏や兎が宙吊り犬とよく似た、なぶり殺しめいた方法で殺されたという話があつたことも思いだした。

また、この話と反対に犬が人間をひどく咬んだ、或はその結果、

人が死んでしまったというような話があつたのも思いだした。どうしてこんな事が起ころう。

私の幼い頃、こんなふうに自分が体力で劣っている生きものだけを対象にした残忍なうざ晴らしの話は聞いたことがない。その頃の人間たちはそんなことにはとても耐えきれないやわらかな心を持つていた、と考えるしかない。

そう思うには理由がある。

その頃、子供たちはそんな頼りなげな生きものとにかく触れて暮らす機会がいっぱいあった。

私自身、八歳の夏、生まれたばかりの仔犬を掌に乗せて、身震いするほどのおののきとおそれをを感じざやかである。毎日の遊び友達もバッタを捕らえ、トンボをじくじく

りまわし、ひよこを触り、仔猫を、仔兔を膝に乗せて撫で、ときには叩いたりして日々を過ごしているのがあたりまえの日常であった。

子供たちが外遊びのたびにその辺をうろついている飼い犬とも野良犬ともつかぬ犬どもと、よかれ、悪しかれ交渉を持つのはごくしその成り行きである。その結果、犬に関する知識は子供たちの頭におのずと入っていった。

どんな表情のときの犬は危険か、そんなときはどうしたらよいのか、どんな顔つきのときは、あるいはどんなしぐさのときは甘えて遊んでくれと言っているのか、誰でも知っていた。子供たちの意識のなかではボチもシロも遊び仲間との間に咬傷事故など起こりようがなかつたし、ましてや彼らを捕らえてなぶり殺そななどというアイデアは出てくるはずがなかつた。

あえて言えば、子供たちにとつて、身近に息づいているさまざまの虫も鳥も四つ足も、「おまえと一緒に生きようなあ」と語りかける相手であった。

誰もが思春期を迎えるまでに、そんな一時期をすごして大人になつたと思う。

やわらかな心はそこで醸成され

たと思う。

さて、今はどうであろうか。



「神戸つ子」

の心意氣

楠田 育宏

（ナショナル電機
株式会社社長）



時は九三年夏。ギラギラの太陽、油蟬の声がいら立ちに拍車をかける。所は須磨のとある古ぼけた民家、今にも朽ち果てそうな様相を呈している。

「ハイ本番」。カチンコの音、一瞬汗が止まる。「カット」「カット」の声で物音が再び甦る。まさに映画「夏の庭」の撮影現場である。主演の三国連太郎さんと三人の少年の衣服は流れる汗で変色していた。それを畳むスタッフ五十名、まるで無表情で汗を拭おうともしない。

「夏の庭」のスタッフから突然の電話をもらったのは一行が神戸で撮影が開始されてまだ間のない七月半ばだったと思う。

台風シーンの特撮で、キヤメラのレンズに水の飛沫がかかってよい絵がとれない、という相談である。

モーターを使った回転板で水を吹き飛ばす装置をレンズの前に取付けるという方法である。正直言つて迷った、自信がない。映画は全神戸ロケ、単なる娯楽作品でも

ない。ストーリーとスタッフの熱意に感動した。

よし少しでも協力して神戸つ子の心意氣を見てもらおうんだ。それから一週間最初のデモ機のアウトラインが出来た。須磨の撮影監督のもとへ走った。モーターの回転音が気になる。少し振動が大きい。

致命的な改良点が出た。台風シーンのカット撮りまで2週間しかない。焦った。設計を根本的に修正した。各部品の一つ一つの精度を上げた。回転の安定のための構造も取り入れた。深夜迄スタッフと打合せが続いた。八月十日にはほぼ完成。最終チェックとカメラ本体との取扱いに又時間を要した。花火大会のカットも撮り終え、台風シーンのカットである。私の心は躍った。スタッフから成功の連絡であった。

十二月六日、特別試写会に招かれた。台風シーンを食い入る様に観た。込み上げるものを感じ自分が自分でない様な気がしていると、更にエンディングに「神戸のみなさまご協力有難うございました」の字幕を見るに至っては、あの暑い須磨の「夏の庭」も今は夢の中の絵画とさえ思えるのである。

—昭和11年8月、神戸生まれ。灘区在住。
六甲学院、大阪工大電気科卒。
趣味：ボウリング、手作り工芸工作—



る。鳥肌の立つ感激を味わった。コスモスの満開に咲き乱れる中で三人の少年の笑顔と老人の満ちた髪。撮影もいよいよクランクアップだ。いつしか蟬の声も遠くなり、代りに須磨の浜の潮騒が秋の足音を運んで来る様な気がした。



阪急六甲駅前、阪急電鉄の経営する店舗が、バス・ターミナルを閉むよう立ち並ぶ。煙草屋、うどん屋、花屋、喫茶店。「阪急喫茶」を、阪急電鉄から借りて、経営する。その時で、家賃が一万余だった。今、考えると、高家賃だったと思う。

花屋の奥さんは美人だった。美しい花々が、喫茶店の前にあり、美しい色どりが駅前を明るくしていた。

戦後五年目、世の中は、暗さから脱却しようとする兆が、復興へと胎動しはじめ、活発化しようとしていた。それは蜘蛛の子を散らすように、四方八方、無差別な行き当りばつたりの様相のまま歩みはじめていた。

戦死した人々、焦土とともに焼け死んだ人々、

餓死した人々、餓死寸前の骨と皮だけの腹だけが異様に脹れた人々がどうにか生き残った。阪急六

甲駅前の店舗はベニヤ板張りのパラックだった。そのパラックの屋根裏の三疊ほどの空間が住居だ

った。屋根裏だから、立とうとすると、梁で頭を打つ、梯子で屋根裏の部屋へ入ると這いながら行動をする。赤ん坊だった息子には、部屋全体がベビー・サークルのような空間だったので危険を感じるようになっていた。庭には丸太を組合せたテーブルと折り置みの椅子を並べた。その椅子も、店内

六甲時代（一）——藍

□れんさいエッセイ

△午後の出会い△⑤

丸本 明子 △詩人△
絵／中西 勝△画家△

内なる世界を繙く。

忘却の彼方へ消滅してしまわない前に、描いておこうと思う。それは、鮮烈な色彩を帯びはじめた。

の椅子も健在である。

二紀会創立同人の、田村孝之介先生のアトリエが六甲の高羽町にあった。先生のアトリエへデッサンの勉強に行かれる若い画家の方々と一緒に行つたことがある。広々とした庭のある素敵なアトリエだった。

国画会の山本万司先生のアトリエも六甲の八幡町にあった。訪問すると、やさしい笑顔の先生と奥様が出迎えてくださった。

松岡寛一先生がモデルと一緒に、屢々、店へ来られた。先生が坐られる席は定っていた。店内の左側の隅の陽の光が斜に入る場所だった。その場所は店の特徴を施しているデザインがあった。手製の小豆色の座蒲団を長椅子の上に敷いていた。先生とモデルが坐ると、異国のcoffee shopのような雰囲気を醸す。不思議なMysteriousな映像の一瞬が思い出される。

長身の池永孟氏は六甲駅からバスで熊内の自宅への行き帰りの時に店に立ち寄られた。

池永氏は南蛮美術品のcollectionをされていて、それが、膨大な数になり、自宅の横に、南蛮美術館を建てられた。後に、市に南蛮美術館は寄贈されたと聞く。

池永家は代々、兵庫区門口町に居住しておられた。私達の先祖も、池永家の向いで、紺屋の商いをしていたらしい。战火に焼けてしまつて、現在は昔日の面影はない。

藍玉を仕込んだ、藍壺が土間に十個ほど埋められていたらしい。藍壺は直径一米ほどあり、蠟で象りした布を藍壺につけ込む。壺に渡してある棒を何度も動かして回して、布を藍色に染める。染

まつた布は、しんしばりをして干場に干す。藍色の布の干されている様子を想像する。藍色に染まつた布は、その昔、有馬街道を徒步で、三木、三田方面へ商いに行つたらしい。農家の人々の労働着、蒲団のがわ、暖簾、祝儀など、木綿の藍染の布は重宝されていたらしい。

先日、詩誌「柵」の同人の、蘭繁之氏から、詩集「藍抒情」を贈っていただいた。

藍の魂が内包される、鋭意な詩魂の形象の結実は静謐な感性と、藍に込められる心象の深さに、先祖の藍染の仕事をことを重ねていた。詩集の中の「藍師」「藍美し」「藍に合掌」「藍草」「藍がめ」「藍絞り」「手仕事」「いのちを染める」「藍の人」「藍色の空」「藍布」、そして「成仏」と、結構する深い詩魂の世界を共有させていただいた。

「成仏」の詩を書かせていただく。

重ねれば重ねるほど

藍は強くなり

濃くなつて

空に色の発生がなされる

さびしい青白い

都会の雨は

老いて行く点影で

青春ではない

藍が濃紺になるまで

染めあげて

こそ

人は成仏するのではないだろうか

六甲駅前の、バス・ターミナルを囲む店舗の、昔日の美しい様子は脳裡から消えない。



市民ギャラリーで開かれた展覧会場



小磯良平「波の休息」(1927年) 東京美術学校卒業制作 モデルは竹中郁

こうべ芸文20周年記念事業に「竹中郁と神戸モニダニズム展」が3月10日(日)～4月11日(月)まで、神戸市役所市民ギャラリーで開催された。

会場には赤と黒の荒い縞柄のラグビイ服を着た竹中郁を描いた小磯良平画伯の東京美術学校卒業制作「波の休息」(1927年)は、神戸モダニズムの代表的な油絵がかかっている。

そして、竹中郁のこのシネボエムも…。
ラグビイ アルチュウル・オネが作曲。

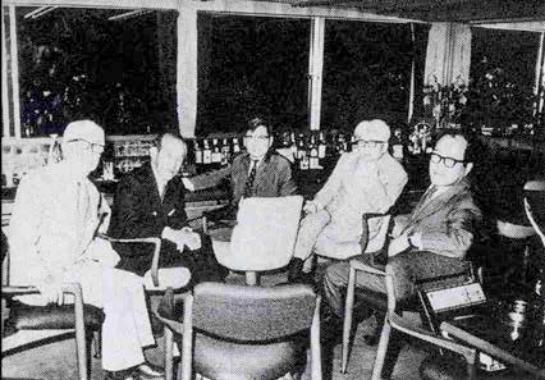
帽子の海。OK / 開始だ。靴の裏には鍼がある。
寄せてくる波と泡とその美しい反射。

5、6、7、
(あつ、どこへ行きやがった)
脚。ストッキングに包まれた脚が工場を夢みてゐる。
仰ぎみる煙突が揃つて石炭を焼いてゐる。雄大な朝。

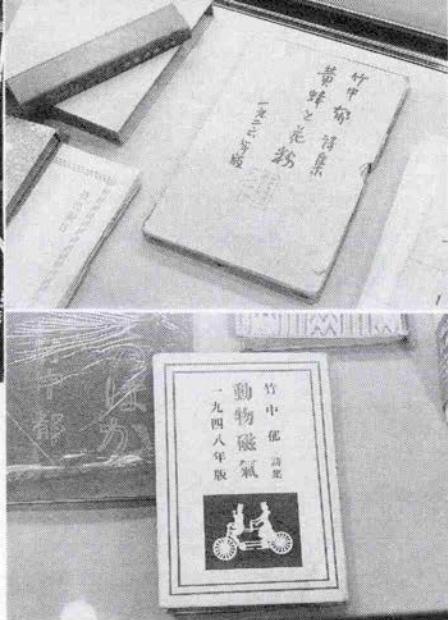
5、6、7、
石鹼の悲しみよ。

●こうべ芸文20周年記念事業

竹中郁と 神戸モダニズム展 開く



上は北野クラブで本誌撮影（昭和30年代）
左より竹中郁、井上靖、陳舜臣、司馬遼太郎、
足立巻一／竹中郁の詩集（中上・中下）

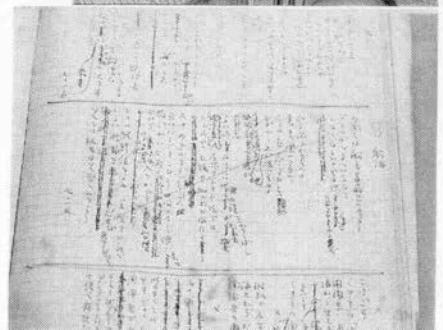


ダンディ在竹中郁（年金不明）

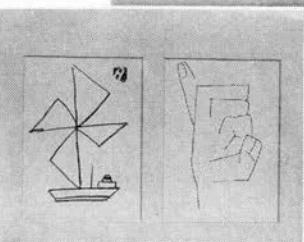
25. 24. 23.	22.	20. 19. 18. 17.	16. 15.	14.	13. 12. 11.	10. 9.
旗、旗旗旗。 (ああ僕は自分の首を蹴つてゐる。)	わふと放された労働者の流れが、工場の門から市中をさして。夕闇のやうに黒い服で。	車、密集機械の脳内。がつちりと喰い合つてゆく歯。	工場の汽笛。白い蒸気。白い蒸氣の噴出。花となる。見みぬ脚に踏みつけられて起きつける草の感情。	人間を人間にまで呼び戻すのは旗なのです。旗の振幅(忘れてゐた世界が再び眼前に現れる)三角なりのやうな人間風景。	疲労する労働者。鼻孔運動。	美しい青年の歯。
26. 25.	21.	19. 18.	17.	16. 15.	14.	13. 12. 11.
飛んでゆく新聞紙、空氣に海月と浮いて……。踏切がしまる。近東行急行列車が通りすぎる。全く	ぐつたりする青年。機械の中へ食はれてゆく青年。深い深い睡眠に落ちこむやうに。	汗をふいて溜息する青年。(球は海が見たいのです)伸びる青年。松の尖った枝々。	中に起きられない草。風。日に遠い風の吹く地面。	人間を人間にまで呼び戻すのは旗なのです。旗の振幅(忘れてゐた世界が再び眼前に現れる)三角なりの旗。悪の旗。	タックル。横から大きな手だ。五本の指の間から苦悶の声。	心臓が動力する。心臓の午後三時。心臓は工場につらつてゐる。飛んでゐるピストン。
27.						8. をかまへてゐる。俯向いてゐる青年。考へてゐる青年。額に汗を浮かべてゐる青年。叫んでゐる青年。青年。青年はあらゆる情熱の雨の中にゐる。喜ぶ青年。日の当つている青年。



竹中都全詩集ほか



竹中都の詩のてっさん（上下）



下は得意なカット

28、夜。
29、落ちている首、（どこかで見た青年だ。）
太鼓の擦り打ち、鈍く鈍く。
雨だ、雨。

神戸の詩人さん竹中都。

「竹中都は、明治三十七年（一九〇四）四月一日（戸籍は三月三十日）、神戸市兵庫区永沢町四丁目七十番地に石阪芳松・しうの三男として生まれ、本名育三郎といった。石阪家は漬粉製造業を営み、のちに海外にも輸出した。一歳で母の妹くにの嫁ぎ先の竹中亀太郎の養子となつた。竹中家は傘・提灯を商う兵庫の旧家であったが、亀太郎は当時勃興した紡績企業にクレーという用品を納める事業に成功し、家計はすこぶる裕福であり、かつ洋風を好んだ。そうした家庭に育ち、早くから良質の洋品を身につけ、兵庫幼稚園、入江小学校、兵庫高等小学校をへて十二歳で兵庫県立第二神戸中学校（現兵庫高校）に進んだ。生いたちからしてハイカラであった。

中学で終生の盟友小磯良平を知り、その影響でヨーロッパの近代絵画に接し画家を志す。だが、養父の強い反

対に遭つて文学に転じ、十九歳で北原白秋、山田耕作主宰の「詩と音楽」の新進十一人集に推薦され詩へと向かう。その年、中学を卒業して関西学院文学部英文科にはいり、その自由で欧米文化を早くとり入れた学風のなかで文学を育て、ことにジャン・コクトーを知つてフランスにあこがれる。最初に福原清とふたりで出した同人詩誌も「羅針」と名づけ、自宅を発行所にして海港詩人俱乐部と称した。これもいかにも神戸臭い。そして在学中に第一詩集「黄蜂と花粉」を刊行し、卒業してしばらく東京で北原白秋の「近代風景」の編集を手伝つたのち、昭和三年二十四歳のときに小磯良平とともにフランスに留学して二年過ごす。滞欧中の作品を文芸詩「詩と詩論」に連続発表し、帰国して詩集「象牙海岸」をまとめ、詩壇に知的詩風で地歩を占める。

この間、小学三年のときに当時の須磨村一の谷に近い別荘に住み、中学四年のとき養父は須磨区行幸町二丁目のテニスコートのある家を新築してくれ、フランスから帰るとそのテニスコートに家を建て、結婚して戦災までここに住んだ。つまり、神戸の最も古い町兵庫に生れて幼時を過ごし、ついで新しい住宅地として開けた須磨に

詩の神戸モダニズム



竹中郁展に見入る女子学生、下は愛用パイプ



帽子と書斎の机、椅子と油絵3点



自画像／「すりおちる
眼鏡」(1968年)

5月8日(日)神戸市役所1号館2階市民ギャラリーにおいて開催され、「詩と愛 竹中郁展」記念講演会に続い、4月16日(土)14時~16時、せいでんラビングホールにおいて、児童文学者の灰谷健次郎氏が記念講演を行う。(要入場整理券)詳しく述べ、文化振興課(078-331-811)

明治・大正・昭和の三時代を生き、大正末期から昭和初期にかけて花開き「神戸モダニズム」の流れを、こうべ芸文が20周年記念事業に、竹中郁をとりあげ、稻垣足穂、福原清、山村順、亀山勝、衣卷省三、水町百窓、光本兼一、静文夫、小林武雄、亜騎保、浜名与志春、広田善緒ら詩人を紹介し、画家の小磯良平、田村孝之助、亀田文子、林重義、岡本唐貴、上山二郎、小松益喜、伊藤繼郎、古家新、別車博資、川西英らの絵画、中山岩太、カナヤ勘兵衛、松原重三、紅谷吉之助、高麗清治らの写真も紹介したことは、神戸文化の原点として意義深い。いま、小磯良平記念美術館が六甲アイランドに完成し小磯良平記念大賞が、神戸市によって設置され第二回目を公募している。

絵画の流れに匹敵する文学の流れの代表詩人・竹中郁をアピールするこの「神戸モダニズム展」を機に、神戸近代文学館と、ビッグな竹中郁賞を創設して、神戸文化の発信地となるよう願う。

ずっと生活し、終生、ほとんど神戸を離れず、神戸の風土を歌い描いた。竹中ほど神戸を深く愛して風土を代表する文学者は他にいない。ことに港や海や船を繰り返して文学の題材とし、文学化した点では「稀有といついい」と、足立巻一は「のじぎく文庫」の「私のびっくり箱」の解題に書いている。

△その173▽

地域文化論

新富山市庁舎に見る

新しくて古い感覚

嶋田 勝次 △神戸大学工学部建築学科教授▽

久し振りに富山市を訪ねたが、数年前だったかの時は、建築業協会賞の審査のために出掛けたのにそその時にはあまり時間もなかったが、今回は二泊も出来た上、トロツコ電車で黒部の上流まで出掛け、紅葉には若干早かつたが、のんびり今までさせていただいたのだから、云うこともない。

それも全国建築審査会長会議で何十人かの一人として長年審査会の委員をしていたとかで表彰してくれたのだから、嬉しい日となつたのである。

折角なので最近完成した建築を見学する楽しみまで勝手に加えることというおまけまでついたので、新しく九二年五月に完成した

という富山市庁舎をまずはのぞくことにした。

JR富山駅から南へ下った直ぐのところに位置しているが、この道路も新しく設けられたようだ。もうしつとりとおちついたふんきが定着している。しかし何か変わっていると感じたのはどうしてだろうかと思いつながら歩いていて分ったのは、電柱がないことであつた。市の中心部がほとんどそうな

のか新しい道路にこころみられたのだろうか不明ながら、都市の景観をよくして行くのに、電柱電線の有無も大きいと感じた。

ところでこの新しい建築は確かに建築の現在的流行を沢山盛り込んでいる。

キャントイレバーのとび出したガラス壁面、見せかけのような細いパイプのキングボストの大きな妻のある屋根が目立つが、この大

屋根が室内にまでそのまま入り込んで天井を構成して、吹抜けの8階建のアトリウム空間を作り出している。この大空間にはシースルーレベーターが変化のある味を見せてくれる。それとは別のエレベーターで展望回廊まであれば、

富山市街が一望出来るのみならず、北陸のシンボルでもある立山連山まで望ませてくれるのがよい。ずっと以前に中学生になつていた息子と二人で登った頃まで思い出させてくれた。

この市庁舎は東と西の二棟を「ハ」の字型に配置して、その間が三角形の大屋根でおおわれているので、市庁舎の外部にまで開かれた空間になっているといえるの

だろうか。それにしても市庁舎というひとつの建物でありながら、そしてアトリウムの大空間で一体化した建築と考えながら、ひとつ建築への統一感がないのはどうしてであろうか。それは部分や色彩や材料が異なったものを利用して、部分が語り過ぎているからではないかと思ってしまうからなのであろう。これはポストモダニズムの時代の感覚とは思えない。それよりもモダニズムの強調されたあとさがりの意識に見えて来るのが気になるのである。日本で、二を争う日本設計という大設計事務所であるからよけいにそう思うのである。

これと比較するのはおかしいのだが、日建設設計の実施した神戸市庁舎の端正な真四角なプランの高層建築を思う時、さりげない形の中に秘められた意欲を想像してしまうのである。もっと云えば、飽食の時代故に一層そんなことまで思つてしまふのである。



'92年に完成した新富山市庁舎

丹念に焼き上げた伝統的洋菓子

“スイートカップル”

あたたかい祝福の言葉のひとつひとつに
心から感謝したい……



お二人の心をこの銘菓に託して

¥ 1,500



株式会社 **ユーハイム・コンフェクト**

本社 〒651-21 神戸市西区北別府2-1-2
TEL.(078)974-9756 FAX(078)974-9758
大阪営業所 〒556 大阪市住吉区苅田町7丁目12-19
TEL.(06)697-9435 FAX(06)697-4188

東京・名古屋・大阪・神戸



Before



After

一番輝く 私に

スーパー美容術で自信のもてるスタイルに

カラダの気になる太めの部分。運動やダイエットで頑張っても、なかなか細くならない。そんな悩みをかかえるアナタには、絶対おススメの脂肪吸引。短時間で、しかも安全・確実に、気になる部分をスリムにできます。

◎脂肪吸引の費用

・頬28万円・上腕28万円・お腹38~58万円・
お尻38万円・太もも38~48万円(太もも全
体68万円)・ふくらはぎ38万円

魅力的なバストに

胸が小さくて悩んでいる人には、豊胸術
がお勧め。生理食塩水を使用する方法と、
自分の余分な脂肪を吸引してバストに注入
する方法があり、どちらの方法も自然な感
触の張りのあるバストにすることができます。

◎費用 豊胸術60万円

※表示金額以外、費用は一切かかりません。

★カウンセリング無料

PRESENT

美容整形に関しての最新情報を満載した本「スーパー美容術のすべてー美しさ自由自在」(品川美容外科監修)を抽選でプレゼント。ご希望の方はハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を書いて下記の宛先までお送り下さい。

〒108 東京都港区港南2-6-3 新富ビル3F
ピューティークラブ「スーパー美容術のすべて」プレゼント 神戸っ子係まで

24時間無料テープ案内

0120-006477

神戸品川美容外科形成外科

078(331)7183<女性>

078(331)4102<男性>

診療時間／AM10:00~PM7:00(年中無休)

※各種クレジットカード・ローン可

大阪 06(312)1420<女性> 京都 075(344)3386<女性>



神戸市中央区三宮町
1-3-3 小林ビル6F

SPRING
FASHION
REPORT

■わたしのファッショントレポート ● 気軽な春のショッピング

△専正池坊副家元△

★南フランス・プロヴァンス地方のプリント生地が美しい「レゾリヴァード六甲アイランド店」

南仏プロヴァンス地方の降り注ぐ太陽の光の下、ラベンダーの紫、オリーブの緑、地中海の青、ミモザの黄といった自然の色をそのまま活かし、今もなおこのプロヴァンスの地で生産を続いているのがレゾリヴァードです。

そのプロヴァンサルプリントを使ったウェア、バッグ、小物などを神戸六甲アイランドで求めることができます。又、部屋のインテリアに合わせて、カーテン、寝装品のオーダーメイドもしています。リラックスした気分ではなやかに楽しめるのがここ洋服の特徴です。



南仏風の雑貨に囲まれて

■神戸市東灘区向洋町中6-9
神戸ファッショントート1F
電 (078) 857-8121
10時~19時 月曜休

★着まわしの出来るシックな服ジバンシィ

「大丸芦屋店2Fジバンシィ・ヌーベルブティック」ジバンシィとは母娘そろってのおつきあいです。仕事を始めるようになってから、洋服はほとんどここで買っています。



上品な装いは、やはりジバンシィ

■芦屋市船戸町1丁目31
大丸神戸店2F
電 (0797) 34-2111
10時~18時(日・祝は18時半)
火曜休

★金製品とダイヤの扱いでは輸入業界トップの店

「オリエンタルゴールド芦屋店」イタリアの「ウノ・ア・エレ」「ヴェンドラフア」等を中心としたヨーロピアンジュエリーを取り扱い、ゴールドジュエリーのアイテムの豊富さ、品質の良さがポイントです。

またダイヤジュエリーは、日本で唯一、原石から研磨まで一貫して行なっている、オリエンタルダイヤモ

生地、仕立ての良さ、そしてカットティングの美しさがポイント。シックで上品なデザインは、5、6年は大丈夫。少しもアウトオブフェッショニになりません。又、縫いしろが充分に残してあるので体型が変わつてもリフォームできるのです。

仕事柄、黒、茶、紺、グレーなどのモノトーンの色シンプルなデザインを選びますが、その時その時の気分やTPOに合わせてアクリアリ、小物を変え幾どおりにも着て重宝しています。



ショーウィンドウ前で

ンド社の「星の砂」を取り扱っています。お買物ついでに、ピアスやプレゼントなどを求めるのに便利です。商品のお値段が控めなものも嬉しい。

■芦屋市船戸町4-1-108
ラボルテ本館1F
電 (0797) 23-56222
10時~20時 第2第3木曜休

★セミオーダーで自分だけのバッグを作る贅沢
「ブルーチップス」
神戸ハーバーランド、オーガスタプラザ2Fにあります。N.H.K文化センターでの講習の帰り、必ず立ちどまりたくなるのがこのお店です。



「店長の宮西さん(左)とは長いおつき合いなんです」と筆者(右)。
ジバンシ・ヌーベルブティックにて。



桂さん(左)と久本さん(右)

★フィレンツェ・パリ直接仕入の品が楽しい
「イール・ド・フランス」

ホテルオークラ神戸で、月一回フランジメントを教える帰りに、立ち寄るところがこの店。小さな店内にはオーナーが、直接パリとフィレンツエで買付けて来たインテリア小物や、アクセサリーの数々が並び、ウインドーショッピングするだけでも楽しい。アクセサリーはフランスならではのデザインが描いたアンティークな仕上げものや、遊び心いっぱいのものが手頃なお値段で沢山あります。

また、フィレンツェのケイサーバーなどのキッチン用品もお勧めです。



革見本を持ったチーフの平松さんと

■神戸市中央区東川崎町1-8-1
オーガスタプラザ2F
電 (078) 360-6057
11時~20時 水曜休

モダンなガラス張りのせいか、光のあふれた店内は、明るく、すてきな小物たちまで、イキイキして見えます。

去年の10月にオープンしたばかりで、バッグ、レディスニット、アクセサリーなどを中心に置かれています。特にこの春より、革のバッグのセミオーダーが出来ます。バッグ、財布などサンプルの中から好きな素材、色、そして裏地が選べます。個性を生かした自分がバッグを楽しめるのです。

■神戸市中央区波止場町2-1
ホテルオーカラ神戸
メザニンアーケード内
電 (078) 393-12799
月曜休 9時半~18時半(平日)
9時~18時半(土・日・祝)

S P R I N G
F A S H I O N
R E P O R T ②

■わたしのファッションレポート

ついつい長居してしまう
私のとつておきのお店

佐本 加奈

／神戸ファッショング専門学校3年／
アパレルテクニカルコース

★宝石箱がひっくり返ったようなお店「オブジェ」初めて入った時、一瞬にして魅了されてしまったこのお店。ハンター坂沿いにある外国人専用マンマヨンの2階にある。店内は薄暗く、不思議な空間で、ランプ、ソファー、食器などを始め、子供用の遊び道具、服、アクセサリー、時計など手にするもの全てが素敵なもののばかり。「オブジェ」の商品はもはや輸入雑貨というより、目のつけどころが他とは違う気のきいたセンスのある物。私にとっては宝物三昧です。



輸入雑貨、手作りアクセサリーが一杯

■神戸市中央区北野町3-2-8 エベレスト1-F
☎ 078 (271) 1414 10時～18時 無休

★MADE IN KOBEのメッセージ

「コウーベバレットハウス」

私がまだ小さかった、異人館クラブオープン時から



お店に入れば気分はプリンセス



神戸らしいカバンがズラリ

■神戸市中央区北野町4-1-12
10時～19時
異人館俱楽部ハート1F
(222) 1・31855
休第1・3火曜日

★帽子からはじまる神戸のスタイル「マキシン」

帽子の老舗「マキシン」は、店内に一步足を踏み入れると気分が変わる。それは、デザインやマテリアルのクオリティーの高さから溢れる帽子の高級感で、友人とお喋りしながらドアを開けても一瞬にして、口が止まってしまう。2百点にもおよぶ帽子の数々、溜め息なのでそうな、シックでエレガントなデザインが

あるこのお店。店内に並んでいる商品から神戸のエスプリを感じる。ここでのバッグ達は、すべてが手作りといいうだけあり、暖かさが溢れ親しみやすい。そしてエレガントであり、気取っていない。ディーテールがあり、ファッショングで例えるとオートクチュールの様な高級仕立て鞄と言えると思います。大丸神戸店にも一部おいてますが、やはり目立っていました。

く、帽子を試着しているうちに、ふと自分も皇室の中の一人になった気分になり、大変な感違いをします。

■神戸市中央区北長狭通2-6-13

☎ 078 (331) 6711 10時～18時 日曜休

★暖かさをわけてもらいに：「シェ・マリー」

オーナーの赤堀さんとは、以前私がアルバイトしていたコーヒーショップ「展覧会の絵」でお知り合いになりました。手作りの素敵な傘入れを頂いた事があった。それは真白のレースがあしらっており、とても洒落た物でした。



ハンドメイドの品々（左・上）

赤堀さんのお店「シェ・マリー」は小物1つ1つが手伝りで、洋服などもフリルを作った物、刺繡をしてあるバック、皮製品など暖かみのあるものばかりです。オーダーメイドのバッグも作ってくれるそう。

★店内で2倍の楽しみがある「ソニアリキエル」

子供服と婦人服が一緒になっている北野店は、店内も広く、子供服と婦人服が同時に見れるのがとても多い。私は、子供服「ENFANT」で小物を買う事が多い。バッグにても「ENFANT」の物は、大人が持つても十分かわいいもの



春の香りが漂う店内

があり、ついつい私は、子供服のコーナーで長く見てしまいます。北野店は、異人館が立ち並ぶ所に一番近いブティックで、ファッショナブルな神戸を一層ひきたてていると思えます。

■神戸市中央区山本通2-12-21
☎ 078 (242) 6754 11時～18時

■神戸市中央区北野町2-8-9
☎ 078 (221) 9600 11時～20時 第1・3火曜休

■わたしのファッションレポート

SPRING
FASHION
REPORT
③

楽しく優しいお店たち

内藤ひろみ

八幡モモカンパニー代表取締役

★作る楽しさ、使う楽しさを味わえる

おしゃれなサロン「ピスクバレット」

素焼きに絵付をするピスクアートのお店です。常時100種類のデザインの素焼きと200色の絵の具があります。度々、仕事で訪れる欧米で目にして以来、是非日本に紹介したいと思ったのが、オープンするきっかけでした。



素敵なサロンでピスクアートを

で描いた器を毎日使えるな

んで、なんて楽しいことで

しよう。Let's join us!

★イタリアからやって来た

「ラ・ポルチエラーナ・

ピアンカ」神戸店

イタリアで見つけて以

来、ずっとファンだった白

い食器専門店の「ピアンカ」

が神戸にやってきました。

良質で美しいフォルムやデ

ザインの楽しさ。なにより



シンプルな中にも個性が光る服がズラリ…

★キャリア・ウーマンにやさしいお店

仕事着として愛用しているイタリア人デザイナーの「エンリカマッセイ」は、シンプルでいて独特なデザインと微妙な色彩の美しさが特徴だと思います。きちんと

とした印象を与えることもできるし、ラフに着くすこともできます。午後10時までのオープンなので、ゆったりしたスペースでリラックスして服選びができる

仕事をしている人には貴重なお店だと思います。



温かく、可愛い食器たち

素晴らしいことは、定番商品が80%を占めるため、買

い足しができることです。

生活を楽しくするエッセン

スのあるお店だと思いま

す。

■神戸市中央区雲井通6-1-15
ブランダン神戸7F 電話078-291-0777(代) (営)10時~19時
水曜不定休

■神戸市中央区北野町1 新神戸オリエンタルパークアベニュー
電話078-262-2531 (営)11時~22時
時無休

★甘く、心地よい

「スピリチュアル ボンド フォー ウイミン」

ナチュラルで少し甘さのあるデザインの着ていて心

地よい洋服です。優しい気

持ちになれる服は、私にと

つて精神安定剤のようなも

のです。いつもお店の方に

選ぶのが早すぎると言われ

のですが、バック、くつ

アクセサリーも充実してい

て、全てにおいてコーディ

ネートしやすくなっています。



淡い色使いが優しい気持ちにしてくれる

■ 神戸市中央区三宮町1-9-1
078-321-0050
(営) 11時～20時 第3月曜休

「作る楽しさ、使う楽しさをお伝えしたい」と内藤さん



古着やアクセサリーが、所狭しと並ぶ店内

★古き良き時代を感じる小さなミュージアムのような
「ハーバーダッシュエリー」

突撃洋服店の元店長が独立して始めたお店です。アールデコの時代のソルト&ペッパーの器や、バック、帳子、アクセサリーなど、小さなミュージアムにいるようで、時間のたつのを忘れてしまいます。古着はアメリカの60年代のものが多く、良質でリーズナブルです。懐しくて新しい感じのお店です。



花の香りが溢れるアーティスティックなベース



★アーティスティックなスベース「ル・ブーケ」
お花は大好きで、私の生活の中ではなくてはならないものです。このフラワーデザインは、アーティスティックで私の創造力を刺激してくれます。花材もさることながら、花器も充実してして、お花の香りの中であれこれ選ぶのは楽しいものです。

■ 神戸市中央区明石町40 大丸神戸
店南館1F 078-331-8121
(代) (営) 10時～20時 水曜定休

■ 神戸市中央区三宮町2-9-2
078-338-3143
(営) 13時～21時 水曜定休